

事務事業評価シート

(平成 23 年度実施事業)

事務事業名	盛岡観光案内所運営事業			事業コード	2287
所属コード	0132000	課等名	観光課	係名	
課長名	村山悦男	担当者名	田村信昭	内線番号	3751
評価分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 公の施設 <input type="checkbox"/> 大規模公共事業 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				

1 事務事業の基本情報

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	活力ある産業の振興	コード	5
	施策	地域資源をいかした観光・物産の振興	コード	4
	基本事業	観光地づくりと観光客の誘致	コード	1
予算費目名	一般会計 7 款 1 項 3 目 観光団体育成強化事業 (003-01)			
特記事項				
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度 <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度	開始年度	昭和 54 年度	
根拠法令等				

(2) 事務事業の概要

盛岡駅構内の観光案内所（協議会）への負担金交付と指導

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

各種観光団体の行事，事業企画，組織の育成強化を図ることにより，市全体の観光推進を図るため。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

平成18年度で岩手県が運営から撤退し，事務局を市で引き継いだ。平成21年度から（財）盛岡観光コンベンション協会へ事務局を移管した。

2 事務事業の実施状況 (Do)

(1) 対象（誰が，何が対象か）

盛岡市内を訪れる観光客

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	21 年度 実績	22 年度 実績	23 年度 計画	23 年度 実績	26 年度 見込み
A 盛岡市観光客入込数	万人回	459	444	472	469	490
B						
C						

(3) 23年度に実施した主な活動・手順

運営団体への負担金交付及び助言指導

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	23年度実績	26年度目標値
A 観光案内所案内取扱件数	件	32,373	28,228	33,000	27,572	33,000
B						
C						

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

盛岡広域・岩手県内への観光案内を行うことにより、利便性の向上と観光客誘致宣伝を図る。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	23年度実績	26年度目標値
A 盛岡市の観光客入込数	<input checked="" type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	万人	459	444	472	469	490
B	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持						
C	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	23年度実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	3,664	4,837	4,837	4,837
	⑤その他()	千円	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	3,664	4,837	4,837	4,837
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	0	0	0	0
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	0	0	0	0
計	トータルコスト A+B	千円	3,664	4,837	4,837	4,837
備考						

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

① 施策体系との整合性

観光案内業務の提供を通じて観光客へ利便性向上, 観光振興に結びついている。

② 市の関与の妥当性

観光客に対しての観光情報の提供は, 観光団体と行政が連携して行う事業であるため, 妥当である。

③ 対象の妥当性

当市は岩手県・北東北の玄関口として多数の観光客が訪れることから妥当である。

④ 廃止・休止の影響

その内容: 多くの観光客の玄関口である盛岡駅で観光案内を行っている唯一の機関であることから, 廃止・休止することにより観光振興上大きな影響がある。

(2) 有効性評価 (成果の向上余地)

(財) 盛岡観光コンベンション協会との連携により成果向上の余地がある。

(3) 公平性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

観光案内所利用は無料であり, 誰でも利用できることから受益機会は公平である。

県内の観光関連団体が構成員となり負担金を拠出しているため公平である。

(4) 効率性評価

最低限度の経費や人員で運営しており, なおかつ近年の経済状況から構成団体の負担金を減額せざるをえなくなってきたり現状は非常に厳しい。

4 事務事業の改革案 (Plan)

(1) 改革改善の方向性

観光案内所利用は無料であり, 誰でも利用できることから受益機会は公平である。

県内の観光関連団体が構成員となり負担金を拠出しているため公平である。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

平成 21 年度から (財) 盛岡観光コンベンション協会へ事務局の移管をしている。

事業予算の問題 (人件費、待遇面等) や構成団体の負担金割合について改善・検討の余地がある。

また, 構成団体を増やしてることが, サービスの質・量向上につながると考えられる。

5 課長意見

(1) 今後の方向性

- 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

広域の情報発信場所として、利用者の立場に立って有効的に発信するとともに、利用促進を図るとともに、施設の機能や運営体制、構成団体の負担割合等について検討が必要である。